

## アンデスメロンの9月どり栽培様式

丸山 康広・栗田 公司\*

(藤島農業改良普及所・\*山形県立砂丘地農業試験場)

Cultivation Method of "Andes" Netted melon for September Production.

Yasuhiro MARUYAMA and Kouji KURITA\*

(Fujisima Agricultural Extension Service Station・\*Yamagata)  
(Prefectural Sand Dune Agricultural Experiment Station)

### 1 はじめに

山形県庄内砂丘地におけるメロン栽培の歴史は古く、以前はプリンスがほとんどであった。しかし、1978年ころからアンデスが導入され始め、現在は主力品種に位置づけられている。1990年におけるアンデスの作付面積は490ha、作型としては、6月下旬～7月中旬収穫のハウス早熟栽培、7月下旬～8月中旬収穫のトンネル早熟栽培が主体となっている。

出荷のピークは7月下旬～8月上旬に現われ、このころから販売単価が下落することが多くみられる。そのため、この出荷ピークの山を前後に崩していくことが、メロン作経営の安定をはかるうえで、また、労働力分散の面からも重要なことである。

そこで、収穫期を7月上旬から9月までに拡大し、高品質生産をするための栽培方法について試験を実施した。

先に、前進出荷のための栽培技術を確立し、1989年には8月中旬以降に収穫する栽培様式を検討したが、その結果は前報(第43号)に報告のとおりである。今回は、9月以降に収穫する栽培様式を株間と整枝方法を組合せて検討した。

### 2 試験方法

(1) 試験圃場：山形県立砂丘地農業試験場(山形県酒田市)砂丘未熟土(内灘統)

(2) 供試品種：アンデス(サカタのタネ)

(3) 試験区：表1参照

(4) 栽培概要

播種/6月15日。定植：7月4日(本葉2.0枚展開時)。

表1 試験区

区	栽培様式			株当り 収穫 果数
	株間	整枝方法	栽植方式	
1	35cm	親づる1本仕立て	2条千鳥植え	1果
2	40cm	親づる1本仕立て	2条千鳥植え	1果
3	35cm	子づる2本仕立て	1条植え	2果
4	40cm	子づる2本仕立て	1条植え	2果

注. 目標着果節位：8～10節。

うね幅；2.7cm、シルバーポリマルチ使用、ハウス立ち栽培、ハウスサイドに白寒冷しゃ使用。子づる2本仕立ては、親づる3節で摘心。

施肥量(kg/a) N-0.8, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-1.0, K<sub>2</sub>O-0.7

### 3 試験結果及び考察

(1) 生育

親づる1本仕立てでは、株間の違いによる差はなかったが、子づる2本仕立てでは株間40cm区が優った。

(2) 雌花着生

雌花着生率は、2条植えが1条植えより劣った。更に2条植えに雌花退化が発生し、株間35cm区で雌花退化率が高くなった(表2)。

2条植えで雌花退化が発生したのは、定植が本葉2.0枚展開時であり、目標着果節位(8～10節)の雌花分化が始

表2 雌花着生・着果 (1区10株当り)

区	雌花 <sup>1)</sup> 着生率 (%)	雌花 <sup>1)</sup> 退化率 (%)	目標着果 <sup>1)</sup> 節位交配 期間	同左 平均 交配日	着果率 <sup>2)</sup> (%)
1	69.4	28.0	7/25～27	7/26	100
2	69.4	16.0	7/25～29	7/26	100
3	100	0	7/30～8/3	8/1	98.3
4	91.7	0	7/30～8/2	7/31	96.4

注. 1)：8～10節。

2)：着果数/(雌花着生数-雌花退化数)×100

まっており定植時のショックとその後の高温により雌花分化が不良になり、雌花素質が低下したためと考えられる。

(3) 果実形質

各区とも目標着果節位に着果した。果重は1条植えより2条植えが、更に株間が広いほど重くなった。また、1条植え35cm区の平均果重が1.6kg前後で、ばらつきも他の区より少なかった。これは、根圏の差が影響したと考えられる。

1条植えで果形がややへん平になった。これは少量多回数のかん水方法で管理したが、かん水量がやや多くなったためと考えられる。

ネット形質は各区とも差はなかったが、盛り上がりにやや欠けるようであった。

平均糖度は、各区とも高く、2条植え40cm区を除いてばらつきも少なかった(表3)。

表3 果実形質

区	平均 交配日	平均 収穫日	着果 節位 (節)	果重 (g)	果 径		果径比 <sup>1)</sup>	ネット 密度 <sup>2)</sup> 盛上り <sup>3)</sup>		果形 <sup>3)</sup>	果溝 <sup>4)</sup>	総合 <sup>3)</sup>	糖度 (Brix)		
					たて (cm)	よこ (cm)		最高 (%)	最低 (%)				平均 (%)		
1	7/26	9/14	9.6	1,723	14.8	14.9	0.99	3.0	2.1	2.2	0.8	2.1	17.5	14.5	16.2
2	7/26	9/14	10.0	2,113	16.1	15.8	1.02	3.0	2.2	2.3	0.9	2.4	18.8	12.5	15.9
3	7/30	9/16	9.4	1,594	14.0	14.5	0.96	2.9	1.9	2.9	0.1	2.6	17.7	14.8	16.1
4	7/30	9/15	9.8	1,683	14.1	15.0	0.94	3.0	2.1	2.3	0.5	2.2	16.7	14.2	15.8

注. 1) : たて/よこ 2) : 1 (粗) ~ 3 (密) 3) : 1 (不良) ~ 3 (良) 4) : 0 (無) ~ 3 (多)  
5) : 1 ~ 2区12株, 3 ~ 4区10株調査。

表4 収穫果数

区	収穫 <sup>1)</sup> 果数 (個)	商品 <sup>1)</sup> 果数 (個)	商品 果率 (%)	a 当り <sup>2)</sup>		等級の分布		
				果数 (個)	重量 (kg)	秀 (%)	優 (%)	良 (%)
1	12	8	66.7	141	242	12.5	50.0	37.5
2	12	8	66.7	123	259	0	37.5	62.5
3	20	19	95.0	201	320	0	73.7	26.3
4	20	18	90.0	166	279	0	44.4	55.6

注. 1) : 1 ~ 2区 12株 (12果) 当り,  
: 3 ~ 4区 10株 (20果) 当り。  
2) : a 当り商品収量

(4) 商品果数

2条植えより1条植えが, 商品果率で優った (表4)。

4 ま と め

9月中旬頃収穫する作型では, 親づる3節摘心子づる2本仕立て, 株間35cmの1条植えが良い結果となった。

なお, 前年度の試験と組合せると8月下旬~9月中旬収穫の作型では, ハウス立ち栽培で, 子づる2本仕立て, 1つる1個着果で, 1条植え, 株間35cmの栽培様式で良品質な果実を多収穫することが可能である。

ただし, この時期の栽培では, モザイク病の発生が問題になるので, その予防には細心の対策と, 果実肥大しやすい時期に当るため水管理には十分な注意が必要である。

今後, 更に収穫期を拡大するため9月下旬以降に良品質な果実が生産できる栽培様式を検討する必要がある。